

新町家のすすめ 建築実例 物件情報シート

建物名：付虫籠のある新町家

建物写真



建物概要

行政区：京都市右京区

建築年：平成30年

敷地面積：(任意) 73.90 m²

建築面積：(任意) 35.85 m²

延べ面積：(任意) 58.74 m²

構造：木造

階数：2階建

本体価格：(任意)

建築主：(任意)

設計者：株式会社アラキ工務店一級建築士事務所 施工者：株式会社アラキ工務店

設計コンセプト・ポイント

施主様から京町家風の外観を再現したいというご希望を受け、法22条区域(※)内に新築させていただきました。

1FにLDK+水廻り、2Fに浴室+W/Cという間取りではありますが、内外装共に無垢材をたくさん使い、使い勝手と細部納まりに拘りを持った、快適で温かみのあるお住まいとなりました。

※法22条区域・・・建築基準法第22条の規定に基づく区域のこと。防火地域、準防火地域の周りにあって、市域ほぼ全域にかかっており、防火の基準が防火地域等に比べて緩やかな区域。

該当する指針の欄に、具体的な内容を記入してください(取り入れていない指針の欄は空白で可)

指針 1 まちに暮らす ～隣地の状況を踏まえて建物配置を計画する～



指針 1-3 まちと穏やかにつなげる仕掛けを作る

取り入れ方：玄関スペースを多機能に活用できるようにする

玄関を1坪と広くし、玄関と取次間に建具を入れない仕様にする事で、ちょっとした接客スペースとして利用するなど、多機能に活用できるようにした。

指針 2 場所になじむ ～地域特性や歴史を踏まえて設計する～



指針 2-1 地域特性を踏まえたデザインとする

取り入れ方：地域の特性を把握したうえでデザインする

外観は、1階、2階の階高をそれぞれ低く抑えることによって、町家の佇まいを忠実に再現。町家を改修したのでは？という仕上がりに。周辺に建ち並ぶ和風住宅と調和するデザインとなっている。

指針 2-2 町並みのスケール感や昔ながらの地割に配慮する

取り入れ方：壁面を適切に分節し、圧迫感を軽減する

表2Fファサードを付長押・付柱で壁面を分節した

指針3 季節や自然を楽しむ ～季節や自然を楽しめるよう工夫する～



指針3-3 建物内の風通しや日射をうまくコントロールする

取り入れ方：季節に応じた日射コントロールを行う

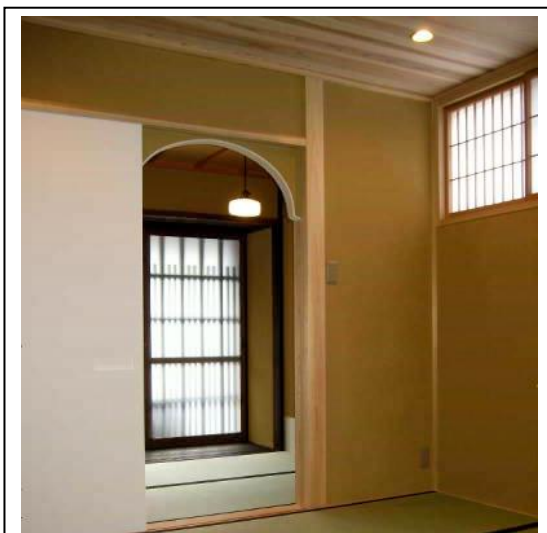
妻壁に格子を設置し、目隠しとするとともに、日照のコントロールをした。



取り入れ方：壁・床・屋根・窓などを適切に断熱する

2階和室の窓は、3重（内側から、紙張障子+木製ガラス戸+木製網戸）になっており、断熱にも効果がある。

指針4 大切に使う ～大切に長く使い続けられるよう工夫する～



指針4-2 木や土壁等の自然素材を使う

取り入れ方：肌に直接触れる部分に自然素材を使う

1階取次から居間は、肌に直接触れる壁に聚楽壁、引戸枠に地桧、襖に鳥の子紙を使用した。

指針5 和の技を感じる ～伝統技術・技能をいかす～



指針5-1 外観に伝統技法・技能をいかす

取り入れ方：和瓦葺きとする

木格子を採用する

虫籠窓風の意匠を施す

東西の外壁に焼き板を採用

外観は、一文字瓦+前包・須覆という伝統的な意匠。構造上の問題から、虫籠窓を開けることはできなかったが、付長押の間に付虫籠を収めた。

法22条区域のため、玄関・出格子共に一般的な木製建具を入れることができた。



指針5-2 内部に伝統的な技術・技能をいかす

取り入れ方：障子を採用する

畳を採用する

玄関に下地窓，取次に塗廻壁を採用

2F寝室に障子を採用し，畳敷とした

玄関には，下地壁、取次には，塗廻壁を取り入れた。いずれも、当初は予定されていなかったが、施主様のご要望で追加したもの。

